

市議会で、「市は市民の代表としてJR東海にものを言うべきだ」、

「市は独自に環境影響調査を行うべきだ」の声上がる。

～リニア陳情書に関する川崎市議会・まちづくり委員会審議報告～

川崎市議会まちづくり委員会が2月5日午前10時開かれ、昨年12月20日にリニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会の麻生・多摩の会、宮前の会、中原・高津の会から出されたリニア新幹線陳情書について審議した。陳情書は、市議会としてリニア新幹線計画について審議すること、また計画の見直しを求める国交省、JR東海宛の意見書を議決してほしいという内容。1時間半の審議の結果、意見書の提出については、環境影響評価審議会の経過を見るとして継続審議とし、今回は意見書の提出は見送るという残念な結果となった。

しかし、この日の委員会では各委員が積極的に市民の意見を取り上げ、市に対して市民の側に立って積極的に動くべきという意見が大勢を占めた。陳情者側の資料として、1月18、19日の市主催のリニア公聴会の公述記録の提出を求め、前日各委員のもとに配布されたことから、各委員が公聴会での市民の意見を事前に理解でき、自らの意見に反映されたことが窺われた。

継続審議になったが、今後も環境影響評価審議会や市長意見の表明などの推移を注視し、継続的に市議会各派、各議員にリニア計画の再検証を求める活動を行いたい。以下、2月5日の委員会での審議概要。

[まちづくり局交通政策室丸山担当課長]

＝リニア計画の市内部分の説明、公聴会等市民意見の紹介＝

- ①リニア新幹線は市内5区16.3キロを地下40m以深の大深度トンネルで走行する。非常口は、中原区のJXホールディング等マカグラウンド、宮前区梶ヶ谷のJR貨物ターミナル、宮前区のサンワ株式会社所有地、麻生区のJSR東京研究所跡地、麻生区の鶴川総合運動場の5カ所に予定され、その規模は直径30m、で換気設備、消音設備、緊急避難用のエレベーターと階段がつけられる。
- ②リニア新幹線事業は整備新幹線の一環として2011年5月、国交大臣からJR東海が建節、営業主体に指名され、建設指示が出された。方法書後環境影響調査が行われ、昨年10月準備書が公表され、縦覧と市民意見の募集が行われた。現在は市の環境影響評価審議会で準備書の審査が行われ、審査書と市長意見がまとめられ、知事に提出される。JR東海は各県知事の意見書を受けて環境影響評価書を作成し、国交大臣に工事認可を申請し、認可されれば大深度使用許可を申請し着工となる。
- ③準備書公表後、その縦覧と意見募集があり、沿線各都県から14,046件、市へは3,791件の意見が寄せられた。また市内で11回の準備書説明会が行われ多くの市民が参加した。環境影響評価に関する市条例に基づく公聴会は1月18日（麻生区）、19日（宮前区）の2日間行われ、工事の影響、地下水への影響、不動産価格の下落などの意見公述があった。

〔佐野委員〕

平成23年5月に答申が出て、3年も経たないのに着工する。短期間に進めて大丈夫なのか。市民の理解も合意も得られていない。戦前のやり方だ。心配する住民の気持ちは理解できる。市に聞きたいが、川崎の地下はどうなっているのか。方法書にある3キロ幅のどれだけ多くの場所で調査をしたのか、地下水の状態、活断層など具体的調査をしたのか。

〔環境評価室河合課長〕

現地調査は実施した。

何か所でボーリング調査を実施したのか、端的に答えよ。

〔環境評価室〕

（答えられず）手元に資料が無いのでここでは答えられない。

〔佐野委員〕

正式ルート上ではほとんどボーリング調査をしていないのではないかと。川崎市内で出るリニア工事による残土量と処理方法についてJR東海と協議したのか。

〔まち局〕

建設発生土の処理方法や処分先についてJR東海から相談や協力要請は来ていない。それらについてはJR東海の責任において処理すべきものとする。

〔佐野委員〕

事前協議はしていない。引き返せない状況をつくって強引に進めるのは民主主義ではない。何も決まっていないうちに着工するのは理解できない。

〔佐野委員〕

消費電力は東海道新幹線の3～4倍という。リニアは再生可能エネルギーによる電力を使わないのか。

〔まち局〕

リニアの消費電力は名古屋開業時は27万kw、大阪開業時は74万kwと説明し、中部電力、東京電力の供給電力で十分賄えると言っている。省エネについては東海道新幹線は車両の省エネ化で当初の50%の電力になったと説明している。

〔佐野委員〕

よもや原発を使うということになったらおそろしい。省エネに取り組むという話がない。次に安全性の問題がある。千人もの乗客を2～3人の乗務員でどうやって安全に避難させることができるのか。安全対策も未確立なのに拙速に走らせてはならない。準備書ではこの問題で具体的に答えていない。

〔まち局〕

安全対策についてはしっかりやっているという話だ。

〔佐野委員〕リニアが出来る頃は超高齢化社会。その利用者も高齢者が多くなる。真っ暗なトンネルの中杖をついた高齢者はほかの乗客を助けるどころではない。

〔まち局〕

トンネルの下部に避難通路があり、そこに降りて最寄りの非常口から避難するようになっている。

〔佐野委員〕

川崎市にはぜん息増加という問題がある。すでに大気質の基準を超えているところもある。リニ

アの工事車両のルートについて市とJR東海の協議が無い。

〔まち局〕

工事に伴う影響、結果について今後検討を進める中で環境保全措置をきちんとやってもらうようお願いする。

〔佐野委員〕

磁界の影響についても影響が考えられていない。

〔まち局〕

JR東海によると、地下の磁界について地上への影響はないという結論だ。0.0001ミリテスラでガイドラインの1万分の1をさらに下回る。

〔木庭委員〕

麻生区東百合丘の非常口予定地は尻手黒川線に面しているにも拘わらず、住宅街を迂回して工事車両が走行する。

〔まち局〕

市もそのことは承知している。工事車両の現場への右折、左折の関係でそうなるが、生活環境への影響を少なくしてほしいと要望し、今後も話をしていく。

〔木庭委員〕

北部では大気汚染による被害が広がっている。搬入時間、騒音対策など、市としてJR東海に意見を言うべきだ。静かな環境のところだ。麻生高校の周辺工事で騒音がひどかった場合、市はJRに防音対策をさせるのか。

〔まち局〕

具体的な話はしていない。全体的な話をしている。

〔木庭委員〕

とにかくJR側の説明が足りない。市は市民の立場に立って、納得できない場合は市民に代わってJRにどんどん言うべきだ。市民の代表として積極的に発信してもらいたい。

〔竹田委員〕

昨年も説明会について陳情があった。川崎市民へのJR東海の説明の働きかけはどのくらいしたのか。

〔まち局〕

JR東海側に求めて、昨年7月に川崎市麻生区で説明会を開催した。

〔竹田委員〕

今後はどうするのか。

〔まち局〕

今年度工事着工後に事業の説明会や工事説明会を行うことになっている。

〔竹田委員〕

公聴会で公述人の資格が限定されている。今後の説明会は全市にわたって開催してほしい。他の自治体の議会で、リニア新幹線について意見書を出したところはあるのか。

〔まち局〕

県内や沿線自治体の議会から意見書を出したというところは無かった。

〔粕谷委員〕

リニア沿線各都県で地下水が枯渇している。そうした関係自治体と協議しているのか。地下水に

影響があることでもっと怒らなければならない。他の水道事業者とも早急に会議を持つ必要がある。

〔環境局〕

地下水への影響ないようにという要望はしている。

〔粕谷委員〕

そういうようなおざなりの姿勢でいいのか。着工して問題が出たら誰が責任をとるのか。

〔まち局〕

事業者とともに責任ある対応をしていく。

〔粕谷委員〕

梶ヶ谷から出る工事残土はどこに運ばれるのか。場所は川崎市が指示するのか。

〔まち局〕

貨物列車で臨海部へ運ぶ。場所はまだ決まっていない。もっと十分説明ができるようになってから着工する。

〔粕谷委員〕

はっきりJR東海に説明を求めたほうがいい。川崎市にとってメリット、デメリットをはっきりさせるべきだ。

〔斉藤委員〕

川崎市内のルートで断層は確認されているのか。

〔まち局〕

JR東海は昭和49年から調査しているが、市内に断層があるという話は聞いていない。

〔斉藤委員〕

ルート上の土壌、地下水流に関係するが、市内は掘るとすぐ水が出る。当局の説明を聞いているとJR東海と同じだ。聞いておりますではなくて、市は独自に調査をすべきだ。市内の工事残土量は400万 m^3 、それを運ぶ工事車両の走行経路も説明が不十分だ。説明なしに、リニア事業が法的に問題が無いとしてどんどん進んでいくことはあってはならない。市として十分調査をしてもらいたい。

〔潮田委員〕

5箇所の非常口の予定地、直径100mの円で示している。等々力の予定地はいま、JX野球部の寮を壊して新しい寮を建設している。そこに非常口をつくることを企業側は理解しているのか。

〔まち局〕

相談はしているが、具体的な話はこれからと聞いている。

〔潮田委員〕

中原区は伏流水が多い。元住吉のマンションはピア（基礎杭？）を深さ50mに打ち込んでようやくつくれたという。何かあったら、はっきりJR東海に言うべきだ。等々力の残土量と工事車両の数は、またピークはいつか。

〔まち局〕

建設発生土は18万 m^3 で、工事車両は最大一日161台。工事期間は11年だが、ピークは3年目。

以上で審議が終わり、陳情書の扱いの裁決に入った。市議会として意見書を出すべきとの意見もあったが、現在市の環境影響審議会ではアセスが行われ、市長意見も出ることから、現時点での意

見書の議決はせず、陳情書については継続審議とすることで裁決された。

.....

＜当日出席の委員は次の通り。総数12人、(所属会派、選出区)、敬称略＞

松原成文(委員長・自民、中原区)、河野ゆかり(副委員長・公明、多摩区)、林浩美(自民、川崎区)、石田康博(自民・宮前区)、木庭理香子(民主、麻生区)、潮田智信(民主、中原区)、佐野仁昭(共産、川崎区)、斉藤隆司(共産・多摩区)、後藤晶一(公明、高津区)、かわの忠正(公明、幸区)、竹田宣廣(無所属、多摩区)、粕谷葉子(無所属、高津区)